

朝夕は幾らか凌ぎやすくなってまいりました。皆さま、お元気でご活躍のことと思います。いよいよ11月に2022年カタールワールドカップが開催されます。ワールドカップとは、ナショナルチームによるサッカーの大会、世界最高峰と位置付けられる世界選手権大会です。4年に1回、西暦の4で割って2余る年(夏季五輪の中間年、1994年以後は冬季五輪と同年)に開催されています。今大会は32チームがA~Hまで8つのグループに分かれて1次リーグを戦い、各グループの上位2チームが決勝トーナメントに進みます。日本はグループEに入り、▽第1戦は日本時間11月23日午後10時からドイツと、▽第2戦は日本時間11月27日午後7時からコスタリカと、▽第3戦は日本時間12月2日午前4時からスペインと対戦します。優勝経験国でもあるスペインとドイツの強豪2カ国と同じグループで決勝トーナメント進出を狙うのは至難の業だと思いますが、頑張ってもらいたいです。中村

建設工事の内容及び例示等の改正について

建設業許可は2つの一式工事と27の専門工事、合計29業種あります。

各業種における類似した建設工事の区分の考え方等について、いくつかピックアップしてみました。

屋根工事

- ① 「瓦」、「スレート」及び「金属薄板」については、屋根をふく材料の別を示したものにすぎず、また、これら以外の材料による屋根ふき工事も多いことから、これらを含めて「屋根ふき工事」とする。したがって板金屋根工事も『板金工事』ではなく『屋根工事』に該当します。
- ② 屋根断熱工事は、断熱処理を施した材料により屋根をふく工事であり「屋根ふき工事」の一類型です。
- ③ 屋根一体型の太陽光パネル設置工事は『屋根工事』に該当します。太陽光発電設備の設置工事は『電気工事』に該当し、太陽光パネルを屋根に設置する場合は、屋根等の止水処理を行う工事が含まれます。

電気工事

- ① 屋根一体型の太陽光パネル設置工事は『屋根工事』に該当します。太陽光発電設備の設置工事は『電気工事』に該当し、太陽光パネルを屋根に設置する場合は、屋根等の止水処理を行う工事が含まれます。
- ② 『機械器具設置工事』には広くすべての機械器具類の設置に関する工事が含まれるため、機械器具の種類によっては『電気工事』、『管工事』、『電気通信工事』、『消防施設工事』等と重複するものもあるが、これらについては原則として『電気工事』等それぞれの専門の工事の方に区分するものとし、これらいずれにも該当しない機械器具あるいは複合的な機械器具の設置が『機械器具設置工事』に該当します。

防水工事

- ① 『防水工事』に含まれるものは、いわゆる建築系の防水工事のみであり、トンネル防水工事等の土木系の防水工事は『防水工事』ではなく『とび・土工・コンクリート工事』に該当します。
- ② 防水モルタルを用いた防水工事は左官工事業、防水工事業どちらの業種の許可でも施工可能です。

詳細は国土交通省 HP(<https://kensetsu.feng.co.jp/guideline-00/>)をご参照ください。

(河野)

知っちょい得

今回の民法改正では保証に関する改正もあります。保証に関しては、平成16年民法改正により貸金等債務に関する包括根保証の禁止等が定められていました。それ以前に商工ローンから高利で借入れを行った中小の事業者の親族が個人保証人となり、業者の倒産により多額の保証債務を負い厳しい取り立てを受けて保証人も自己破産せざるを得ない状況となる等の社会問題となっていたことから貸金等債務に関して極度額(保証金額の上限)を定めのない根保証契約は無効とする等の改正が行われていました。今回の改正ではさらに個人保証人の保護を進める改正がなされました(続く)。

弁護士 渋谷和洋

千代田区六番町番地1 協和ビル6階

建設業Q&A

Q. 2つの県に営業所を設置し建設工事を請け負いたいのですが、大臣許可が必要でしょうか？

A. 建設業を営む営業所の所在地が、1つの都道府県内となる場合は、各都道府県知事の許可となり、2つ以上の都道府県に存する場合は、国土交通大臣の許可となります。なお、施工する現場の場所は、許可とは関係なく、知事許可の事業者でも他道府県において施工することができます。

(中村竜二)



9月10日

カラーテレビ放送記念日

1960年(昭和35年)の9月10日、NHK・日本テレビ・ラジオ東京テレビ(現:TBS)・読売テレビ・朝日放送の5局がカラーテレビの本放送を開始しました。これはアメリカに次いで世界で2番目となるものでした。カラーテレビ(color television)とは、映像に色が付いているテレビジョン放送、またはこれに対応したテレビ受像機を意味します。日本で登場したばかりの頃は「総天然色テレビジョン」と呼ばれていました。当初は非常に高価であったためあまり普及しなかったが、1964年(昭和39年)の東京オリンピックを契機に各メーカーが規格化・画質の改善・宣伝に力を入れたことで普及が大幅に促進されました。その後、カラー放送が増えたことなどもあり、受像機の生産台数も大幅に伸びました。さらに、性能が向上し、大量生産で値段が下がったことにより爆発的に普及し、1973年(昭和48年)にはカラーテレビの普及率が白黒テレビを上回りました。(渋谷)